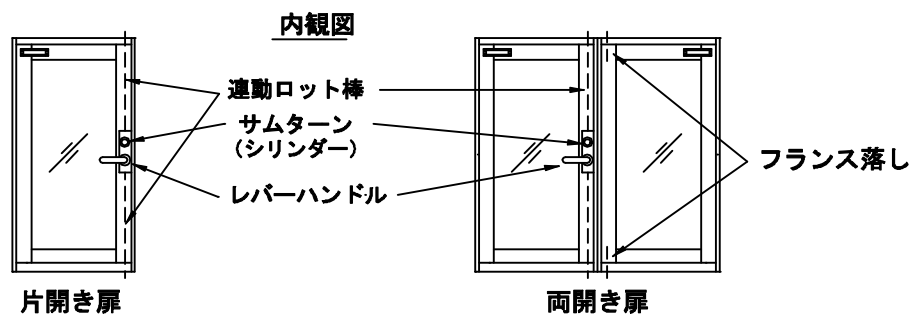


開き扉の取扱い

(グレモン締り)
ドアクローザ

ドアクローザにより自動的に閉まる扉です。

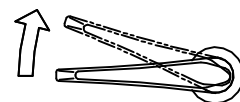


グレモン締りの操作

グレモン締りは、レバーハンドルの操作により、ドアの上下枠にロット棒を突き出して施錠をおこないます。次の操作手順に従って操作をしてください。

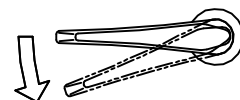
■閉鎖時

- ① 扉を閉めた後、レバーハンドルを一度上に押し上げてグレモン締りを作動させ、サムターン（シリンダー）を回してください。



■開放時

- ① サムターン（シリンダー）を解除した後、レバーハンドルを下へ押し下げた状態で扉を開けてください。



ドアクローザ（自閉装置）

開けた扉を自動的に閉める装置です。

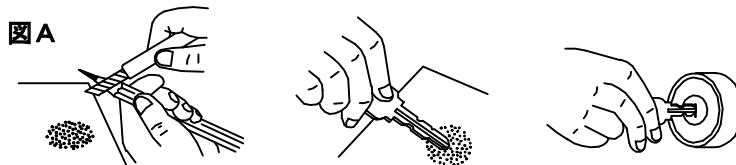
- ① ドアクローザはストップ付きとストップ無しの2種類の商品があります。（ストップ付きは、扉を90°開いた時に停止の状態になります。）
- ② 同室内で他の開口部（窓など）が開いていると、風の流動により閉鎖スピードが速くなることがあります。

※ドアクローザの■使用上のお願い、■速度調整のしかた、については、別紙 ドアクローザの取扱い をご覧ください。

錠 前

■ 日常の簡単なメンテナンスの方法

- ① 錠の抜き差しがスムーズでない場合には、鉛筆の芯（黒鉛）を削って粉にしたものを錠にまぶして、何回か錠穴に差込んでください（図A）。
- ② 錠前がガタつく場合には、錠前の取付用のビスをドライバーで適度に締付けてください。

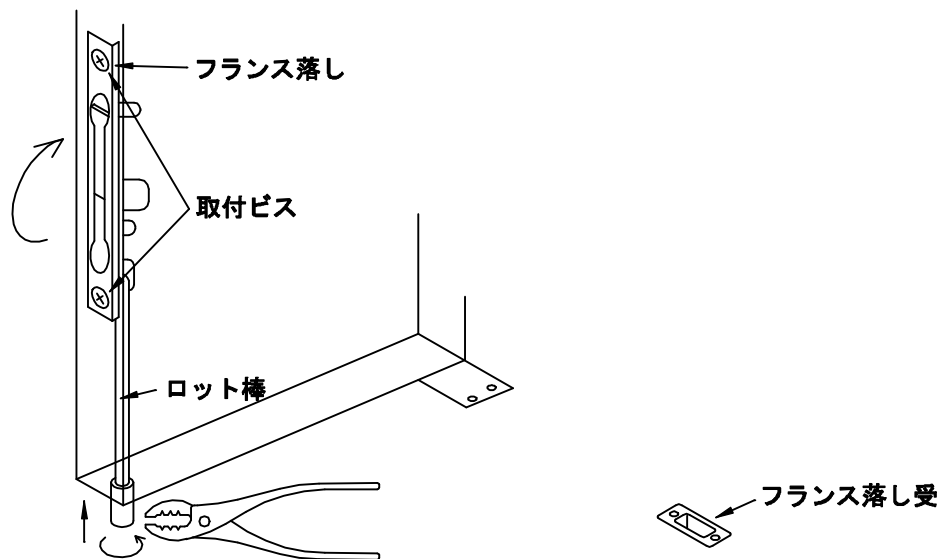


お 願 い

- ① 錠および錠穴には、油をささないでください。
- ① 施錠した時は、念のためにハンドルを動かして施錠状態を確認してください。

フランス落とし

- ① 両開き扉の場合には、片側の扉を固定する金具（フランス落とし）が上下に取付けられています。
使用中、破損やゆるみが生ずると扉の機能に支障をきたすことがあります。
- ② フランス落としを、動かしても扉の上下がスムーズに開かない場合は、ロット棒のゆるみが原因ですので、フランス落としの取付ビスを取りはずし、フランス落としを手前に引きながら10mm程度引上げて扉を開いてください。
- ③ 扉を90°まで開き、フランス落としをもと通りに戻して取付け、ロット棒をプライヤーなどで締付けてください。



お願い

- ① 開閉操作はゆっくりおこなってください。
手を挟むなど事故やけがにつながる恐れがあります。
- ② 扉と枠の間に物を入れないでください。
物を入れたりすると扉に曲りが発生し、施錠が悪くなったり、扉が完全に閉まらなくなったりなどの不具合が発生します。
- ③ 扉が枠に当たるなどの不具合が発生したら、丁番（またはピボットビンジ）の取付ビスを締直してください。

注意

1. 障子を窓枠に取付けた時は、はずれ止め部品を必ず表示の位置に固定してください。
障子が窓枠からはずれると事故につながります。